

令和5年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和6年1月18日
江別市立文京台小学校

1 本年度の重点目標

- 重点1 基礎基本を徹底し、知識・技能を確実に習得させる学校づくり
- 重点2 自他と学びあい、思考力・判断力・表現力を高める学校づくり
- 重点3 地域とともに、学んだことの意義を実感できる学校づくり

2 自己評価結果に対する学校関係者評価

(自己評価は4点満点中、3.4(85%)以上で「A」評価、児童アンケートも肯定回答85%以上で「A」とした)

| 分野 | 評価項目 | 自己評価 | | 学校関係者評価 | |
|---------|--|------|--|----------|---------|
| | | 達成状況 | 改善の方策 | 自己評価の適切さ | 改善策の適切さ |
| 経営方針の重点 | <p>■本年度の重点目標が実現可能な具体性をもって明確に示され、実践されているか。</p> <p>【経営の重点と具体的な取組指標】</p> <p>重点目標：素直で思いやりの心を身につけ、自他を高めあう文京台の子</p> <p>【重点1】基礎基本を徹底し、知識・技能を確実に習得させる学校づくり</p> <p>◎家庭学習・読書の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習 ～児:3.6 学:3.3 ・読書の推進～児:3.3 保:2.7 学:3.3 <p>【重点2】自他と学びあい、思考力・判断力・表現力を高める学校づくり</p> <p>◎友だちと助け合いながら、仲良く過ごすことができますか～児:3.8</p> <p>◎Q-U検査等を活用した思いやりのある支持的風土の学級づくりの推進～学:3.5</p> <p>【重点3】地域とともに、学んだことの意義を実感できる学校づくり</p> <p>◎家庭地域連携～学:3.4</p> <p>◎大学との連携～学:3.7</p> <p>◎コミュニティースクール～ 学:3.4</p> | B | <p>評 児童の実態と令和4年度の学校評価から、令和5年度の重点目標を上記の3点とした。昨年度末と今年度当初、重点目標とそれを受けた具体的な教育活動の姿を教職員で確認し、年2回の教職員・児童・保護者を対象とした学校評価（中間評価・年度末評価）を通して教育活動の見直しを行った。</p> <p>学校評価では達成値を3.4に設定し、多くの項目で達成もしくは達成に近い数値が出ていることから教育活動の成果が表れてきていることがわかるが【重点1】「読書の推進」について教職員・児童・保護者の3者いずれにおいても達成値を上回ることができなかった。特に保護者評価における数値が2.7であることから家庭で読書に取り組む姿が多くは見られていないということが伺える。読書によって得られる読解力や知識、思考力、表現力が子どもたちの成長に大きな役割を果たすことから、引き続き家庭と連携しながら読書教育を進めていく必要がある。</p> | A | A |
| | | | <p>改 今後も教育活動が、年度の重点目標の達成に向けて展開されるよう意識しながら取り組むとともに、その検証方法等についても関連性が明確になるようなマネジメント・サイクルの確立を目指していきたい。学校評価によって明確になった具体的な課題については教職員間で協議を重ね、地域・保護者の考えを受け止め、改善を図っていく。</p> | | |

| | | | | | |
|-----------|--|---|--|---|---|
| | <p>■重点についての取組や成果・取組状況等が広く発信され、家庭や地域の理解と協力を得て、学校経営が進められているか。</p> <p>【評価指針と評価結果】</p> <p>学:情報発信～特色ある教育活動や児童の様子の紹介等、自校の成果と魅力の最大限の発信…3.7</p> <p>保:学校は、参観日や個人懇談、学校・学年だより、マチコミメール、学校HP等により、学校や子どもの様子などがよく伝わるように努めている…3.4</p> | A | <p>評 年度当初はコロナ対策を実施している時期ではあったが、保護者全体ではなく、ICTを活用しながら学級懇談時に学級ごとに学校経営説明会を実施するなどして学校経営に関する発信の機会を作った。また、今年度は学校HPを刷新し、ほぼ毎日、学校の様子を発信した。学校だよりや校長室だよりを保護者にはマチコミメールで配信するなど、確実に保護者の手元に届くよう工夫をした。学校だよりについては電子配付を基本に、紙での配付を希望する保護者には用紙版を渡すなどして、保護者のニーズに応じることができるよう発信手段の工夫も行った。</p> <p>改 次年度は保護者への確実な周知とペーパーレス、児童へ文書を配付する時間の削減による学習時間の保障のため学校からのお知らせ文書を一部、マチコミメールに添付する等を行う。保護者への確実な情報発信と連携により、地域・保護者とともに学校づくりを充実させていく。</p> | A | A |
| 教育課程・学習指導 | <p>■考えたり思ったりしたことを進んで表現（発表）する力が、子どもたちに身に付いているか。</p> <p>【評価指針と評価結果】</p> <p>児:自分の考えをすすんで発表したり、書いたりすることができるか…3.3</p> | B | <p>評 児童アンケートにおいて83%以上の肯定的な回答があった。Aにはわずかに届かなかったものの、大半の児童たちには積極的に表現しようとする姿勢が見られる。自身の考えを伝えることに消極的な児童が一定数いるが、自信を持って発表できる学習活動を意図的に設定する等して全児童の力を高めていく必要がある。</p> <p>改 上記の課題を解決する手段のひとつとして、これまでの学習活動に加え、ICTを活用し、全児童が確実に発信できる学習場面を設定し、褒めて認めて励ますことで表現することへの抵抗感をなくし、さらなる表現力の向上を目指していきたい。</p> | A | A |
| | <p>■「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、子どもたちが意欲をもって取り組む授業が展開されているか。</p> <p>【評価指針と評価結果】</p> <p>児:テレビやタブレット、パソコンを使った授業はわかりやすいか…3.8</p> <p>児:学校の勉強は、よくわかるか…3.7</p> <p>保:学校は、ICT活用等、授業の工夫に積極的に取り組み、「確かな学力」の育成に努めている…3.2</p> <p>学:教職員の資質向上、教える側の基礎基本に結びつく研修の充実…3.6</p> <p>学:ICT機器を積極的に活用した教育活動の工夫・改善…3.6</p> | A | <p>評 全学年にタブレットが導入され、高学年を中心に活用が進んでいる。ICT機器を活用した授業は、児童の関心・意欲を高め、理解を深めさせていることが読み取れる。今年度は教職員の研修において、ただICT機器を利用するだけではなく、それぞれの教科の学習のねらいを達成するための検証等も行うことができた。</p> <p>改 授業内容や指導体制を工夫し、児童がより積極的に学習課題に取り組み、生き生きと授業に臨むことで、確かな学力を身に付けさせたい。次年度もギガサポーターの支援を受けつつ、ICTに関する教職員の研修をいっそう強化していきたい。</p> | A | A |

| | | | | | |
|------|---|---|--|---|---|
| | <p>■宿題や家庭学習の取組により、子どもたちが自学自習に向かうようになっているか。</p> <p>【評価指針と評価結果】</p> <p>児：宿題や家庭学習をがんばっているか…3.6</p> <p>児：大麻スタンダード学習7箇条を守ることができているか…3.5</p> <p>学：学習生活習慣～「大麻スタンダード」と定着に向けての指導…3.4</p> <p>学：学習生活習慣～家庭学習習慣確立のための工夫…3.3</p> | A | <p>評 児童アンケートにおいて95%以上の肯定的回答があり、たいへん意欲的に家庭学習に取り組んでいることがうかがわれる。教師の評価は児童よりも低いことから、家庭学習における質的な向上を目指した適切な指導が必要であると考え。</p> <p>改 「マイパワーノート」の日常的な取組や啓発、家庭学習強化週間を通しての家庭との連携・協働により、さらなる充実を図りたい。家庭学習の質を向上させていくために、現在、小中一貫教育の学力向上部会において大麻中学校区統一の「家庭学習の手引き」を作成している。</p> | A | A |
| 生徒指導 | <p>■自分から進んで挨拶をする力が子どもたちに身に付いているか。</p> <p>【評価指針と評価結果】</p> <p>児：自分から進んで挨拶をすることができているか…3.6</p> <p>保：(文京台小学校の児童は)元気で明るい挨拶ができている…3.3</p> <p>学：生徒指導～素直な心の育成、挨拶の徹底等、予防的生徒指導の推進・積み上げ…3.3</p> | B | <p>評 今年度も児童会による「あいさつ運動」を行うことができ、児童が笑顔で挨拶する姿が校内で増えている。日頃からの指導の継続により、児童アンケートにおいて95%以上の肯定的回答があった。しかし、教職員と保護者による評価は3.3とやや低かった。現状として挨拶ができる児童は多いが、受け身な姿勢も見受けられる。「進んで挨拶をする」という意識を高めていく必要がある。</p> <p>改 来年度も、児童会による「あいさつ運動」等を継続し、子どもたちの手による活動を大切にしていく。一方で、家庭や地域とも連携を図り、挨拶の意義などを意識させ、自然に挨拶ができる児童を増やしていきたい。</p> | A | A |
| | <p>■お互いに認め合ったり、助け合ったりし、思いやりある行動ができる子ども達に育っているか。</p> <p>【評価指針と評価結果】</p> <p>児：友だちと助けあいながら、仲よく過ごすことができているか…3.8</p> <p>保：(文京台小学校の児童は)生命を大切にする態度や人を思いやる気持ち、感動する心など、「豊かな心」が育っている…3.2</p> <p>学：道徳教育～心に響く道徳教育の推進と道徳科指導方法研修の充実…3.5</p> | A | <p>評 児童スローガンとして『素直に「はい!」おもしろいの「ありがとう!」』を挙げ、児童に浸透させてきた。また、「かがやきの木」運動や児童会による「ありがとう活動」等、互いのよさに気づかせたり、感謝の思いを持たせたりするよう、意図的・計画的な取組の積み重ねが成果として表れてきている。多くの学級において支持的風土が醸成されており、児童間のトラブルも少ない。また、学校行事等においては児童同士で助け合いながら目標達成に向けてがんばる姿が見られている。</p> <p>改 今後も目指す子ども像を子どもたちに浸透させるとともに道徳科や教育活動全体を通して、相手意識が向上するよう指導を継続し、自他を大切にする心を育てていきたい。</p> | A | A |

| | | | | | |
|--------|--|---|--|---|---|
| | <p>■学校いじめ防止基本方針に基づいて、実態等を周知したり、組織的に対応したりすることができているか。</p> <p>【評価指針と評価結果】</p> <p>学：Q-U 検査いじめ・不登校～いじめアンケート等を活用した実態把握と全職員による粘り強い対応…3.6</p> <p>児：学校へ通うのは楽しいか…3.5</p> | A | <p>評 学校では国や道の指針に則り、年3回のアンケート等（うち2回は道教委による調査・1回は江別市独自の調査）をもとにしたいじめの認知、児童の個人面談、日常の様子観察による実態把握と未然防止に努めてきた。また、いじめの積極的認知をより推進するために、指導部を中心に校内研修を行い、共通理解を図った。令和5年度は学校のいじめ防止基本方針を2回改訂し、より細やかな対応ができるよう体制を整えた。</p> <p>改 いじめ対応については、関係する児童・保護者への配慮のもとで慎重に進めながら、保護者との連携を密に行うなどの関係性を大切にしていく。また、いじめに関しては、未然防止・初期段階での解決が重要である。日常的な児童と教師、家庭と学校とのコミュニケーションが基盤となることから、より相談しやすい関係性の構築と、丁寧な説明や対応が重要であると考え。</p> | A | A |
| 小中一貫教育 | <p>■義務教育9年間の「目指す子ども像」実現に向け、「系統的な指導」「一貫した指導」「相乗的・補完的な指導」を行い、教育活動を充実させることができたか。</p> <p>【評価指針と評価結果】</p> <p>学：小中一貫教育～各部が組織的に校区内小中学校と連携し、小中一貫教育を推進することができたか。…3.2</p> | B | <p>評 大麻中学校内小中学校共通の学習規律・生活規律「大麻スタンダード」を策定し、今年度より活用した指導を行うことができた。また、中学校教員による乗り入れ授業や部活動体験を実施し、中一ギャップ回避に向けた取組を行うことができた。現在、小中一貫教育の学力向上部会において大麻中学校区統一の「家庭学習の手引き」を作成している。</p> <p>改 今年度の本格実施により小中一貫教育の体制が整った。今後も各部が連携しながら小中一貫教育を進めていく。児童生徒の実態を捉え、重点単元や共通指導事項を明らかにした系統的・補完的な指導については今後も一層充実させていく必要がある。</p> | A | A |
| 地域連携 | <p>■保護者や地域（自治会・大学等）と連携・協力し、地域の教育力を生かしながら、地域に開かれた「信頼される学校」づくりが進められているか。</p> <p>【評価指針と評価結果】</p> <p>学：家庭・地域連携～目標やビジョンを家庭・地域と共有するなど信頼される学校づくりの推進…3.4</p> <p>学：大学連携～体力テスト、出前授業、授業ボランティア等による体験的授業づくりの充実…3.7</p> <p>学：コミュニティースクール～学校運営委員会との連携充実による地域と共にある学校づくりの推進…3.4</p> | A | <p>評 文京台小学校は、北翔大学との連携協定のもと連携教育が実践できている。また、様々なボランティアによる支援も受けながら、「社会に開かれた教育課程」を展開することができている。修学旅行での横山教授による火山学習、大宮准教授による体育の出前授業、山谷学長による教職員への研修等を実施することができた。</p> <p>PTA活動においては、PTA主催のイベントを夏、冬の年2回行うことができた。また、校舎に設置されている天体望遠鏡を利用した「星見会」での土星の観察はコロナ禍が終わり全家庭を対象に実施することができた。</p> <p>学校運営委員会との連携においては、街</p> | A | A |

頭ボランティアを学校運営委員会の組織に位置付け、登校時における不測の事態（Jアラートの発出等）において児童の安全確保について連携体制を構築することができた。

地域との関わりにおいては文教クラブのみなさんと共に地域の環境づくりに取り組む活動も行うことができた。学習発表会では文教クラブのみなさんにもご案内をし、子どもたちの学習の成果を見ていただくことができた。

改 児童の実態や学校が抱えている課題について、情報提供や連携を進め、学校・家庭・地域が一体となって児童の健やかな成長に積極的に関わることで、いっそう「地域とともにある学校」づくりを進めていきたい。

【評価項目の設定、達成状況及び改善の方策に関する学校関係者評価委員の意見】

- ・学校が行った自己評価とその改善策は適切であると判断する。資料には5つの評価項目に対して学校が自己評価をする根拠となるアンケート結果等の数値が記載されているが、記載事項のバランスは見直していく必要がある。現在、ICTの活用等を重視する傾向があるが、授業を通してどのような力を育むのかという本質の部分に対してもしっかりと評価を行うということを大切にしたい。
- ・学校だけではなく家庭においても子どもたちが読書をする環境を整える必要があるが、「保護者との連携」だけではなく、「読書の楽しさ」を広げる改善策を考えてもらいたい。
- ・中学校区で様々なものを統一することは良いことではあるが、それぞれの学校が持っている「良さ」は大切にもらいたい。
- ・街頭ボランティアから見える児童の姿…7割程度の児童は挨拶ができていますが、受け身な様子が伺える。児童から積極的に挨拶できるという姿が望まれる。
- ・児童館との連携…家庭学習の取り組み方等については児童館（放課後児童クラブ）と連携があると良い。次年度、『家庭学習の手引き』リニューアル時に児童館にも情報提供を行うこととする。